

昭和49年度水稻関係除草剤 委託試験成績中央判定結果の一部改訂

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度の水稲作関係除草剤委託試験成績結果についての中央判定は同年12月の中央会議において行なわれたが、その判定について9剤の異議申請が提出されていた。昭和50年2月20日に全専門調査員の参集のもとに異議申請事項にもとづき、再審査した結果、次の如く改めることが適当と結論された。

- 4) MCC・MCP粒剤
- 5) モリネートSM粒剤
- 6) モリネートK粒剤
- 7) モリネートKM粒剤
- 8) S-64X粒剤
- 9) MT-B-8015(H)粒剤

1. 審査薬剤

- 1) MC-79粒剤
- 2) CG-102粒剤
- 3) TH-63粒剤

2. 審査結果

中央判定会議において作成された使用基準(A)と、今回改訂された使用基準(B)を各薬剤別に示す。

1) MC-79粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバイ	+3~+7 (ノビエ 1Lまで)	㊥ 300g/a	砂壤土~埴土 (2cm/日以下)	

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+3~+8 (ノビエ 1Lまで)			

2) CG-102粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地の普通期	一年生雑草、マツバ イ、ヘラオモダカ	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20 ノビエ 2.5Lまで ヘラオモダカ始～盛(2L) 〔但し、寒地は、 ノビエ2.0Lまで〕	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (3cm/日以下)	・前処理剤と組み 合わせて使用。 ・シメトリン混合 剤と同様の注意を 守る。

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +15～+25 ノビエ 2.5Lまで ヘラオモダカ始～盛(2L) 〔但し、寒地は、 ノビエ2.0Lまで〕			

3) TH-63粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地の普通期、温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ミズ ガヤツリ、ウリカワ、 ヘラオモダカ	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20 ノビエ 2.5Lまで ホタルイ発生盛～5Lまで ミズガヤツリ発生盛 ～4.6Lまで ウリカワ # ～5Lまで ヘラオモダカ発生始 ～2Lまで 〔但し、寒地では、 ノビエ2.0Lまで〕	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合 剤と同様の注意を 守る。

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +15～+25 ノビエ 2.5Lまで			

3) (B)つづき

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		ホタルイ発生盛～5Lまで ミズガヤツリ発生盛 ～4.6Lまで ウリカワ 〃 ～5Lまで ヘラオモダカ発生始 ～2Lまで 〔但し、寒地では、 ノビエ2.0Lまで〕			

4) MCC・MCPB粒剤

昭和49年度判定「継」。昭和46年度使用基準の拡大不可能の判定であったが、昭和46年度試験成績、昭和49年度試験成績について再審査した結果、下記の如く使用基準が作成された。

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地、寒冷地	一年生雑草、 マツバイ	+19～ノビエ2Lまで	⊕ 300g/a	砂壤土～埴土 (2.0cm/日以下)	・有機リン剤、カーバメート系殺虫剤との近接散布をさける。
温暖地の普通期			⊕300～ 400g/a	壤土～埴土 (1.5cm/日以下)	

5) モリネートSM粒剤

① 成苗移植・茎葉兼土壌処理

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
全域の普通期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ	+10～ノビエ3.5L ヘラオモダカ 始～2L ホタルイ 盛～5L ウリカワ 盛～5L ミズガヤツリ 始～4L	⊕ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。
温暖地東部の普通期 早期	同上、ヒルムシロ	ヒルムシロ 増殖初期 3～5L			

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3.5L ヘラオモダカ 始～4L ホタルイ 盛～5L			

5) (B)つづき

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		ウリカワ 盛～6 L ミズギャツリ 始～4 L ヒルムシロ 増殖初期 3～5 L			

② 成苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地	一年生雑草、マツバ イ、ヘラオモダカ、 ホタルイ	田植前後土壌処理した場合。 +20～+25 ノビエ 2.5 Lまで ヘラオモダカ 始～2 L ホタルイ 始～2 L	㊟ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	・シメトリン混合 剤の使用上の注意 を守る。

使用基準(B) [変更事項のみ]

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +20～+25 ノビエ 2.5 Lまで ヘラオモダカ 始～4 L ホタルイ 始～5 L			

③ 稚苗移植

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地～温暖地の普通期、温暖地東部および暖地の早期	一年生雑草、マツバ イ、ウリカワ	+15～ノビエ3.5 L 但し、寒地は2.5 L ウリカワ 盛～5 L ホタルイ 始～2 L	㊟ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	・シメトリン混合 剤の使用上の注意 を守る。
温暖地西部の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ミズ ギャツリ	ミズギャツリ 始～3 L ヘラオモダカ 始～2 L			
寒地	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ヘラ オモダカ				

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地～温暖地の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、ホタルイ	+15～ノビエ35L 但し、寒地25L ウリカワ 盛～6L ホタルイ 始～5L			
温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ	ミズギャツリ 始～4L ヘラオモダカ 始～4L			
温暖地西部の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズギャツリ				
寒地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ				

④ 稚苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地東部の普通早期	一年生雑草、マツバイ	移植前後土壌処理した場合。 +20～+30 (ノビエは35L、但し、寒地は25Lまで)	㊟ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。
寒地～寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	ホタルイ 始～2L ヘラオモダカ 始～2L			
寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ	ウリカワ 始～3L			

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地東部の普通期・早期	一年生雑草、マツバイ	移植前後土壌処理した場合。 +20～+30 (ノビエ35L、但し、寒地は25Lまで)			
寒地～寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	ホタルイ 始～5L ヘラオモダカ 始～4L			
寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、オモダカ	ウリカワ 始～3L オモダカ 始～4L			

6) モリネートK粒剤

湛水直播

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
温暖地西部以西	一年生雑草, マツバイ	播種後7～15日 イネ 1.5L以後 ノビエ 2.0Lまで コナギ 3.0Lまで	㊥ 300～400 g/a	壇壤土～壇土 (1cm/日以下) 火山灰土壌 (3cm/日以下)	・コナギ多発田では早目に使用する。 ・低温での使用は薬害の危険性があるので、注意する。

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
				壇土～壇土 (1cm/日以下) 火山灰土壌 (3cm/日以下)	

7) モリネートKM粒剤

① 成苗移植・茎葉兼土壌

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズギャツリ, ウリカワ	+10～ノビエ2.5L (+1.5頃) ホタルイ 発生始～盛 ミズギャツリ 始～3L ウリカワ 盛～5L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～壇土 (2cm/日以下)	

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3.0L ホタルイ 始～3L ミズギャツリ 始～3L ウリカワ 盛～5L			

② 稚苗移植・茎葉兼土壤

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地以西の普通期、 温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ	+10～ノビエ3L 但し、寒冷地は2.5Lま で。	㊥ 300～400 g/a	〔温暖地以西の普 通期〕 砂壤土～埴土 (2cm/日以下) 〔寒冷地〕 埴土～埴土 (2cm/日以下)	
温暖地以西の普通期 ・早期	一年生雑草、マツバ イ、ウリカワ、ミズ ガヤツリ	ホタルイ 始～2L ウリカワ 始～4L ミズガヤツリ 始～3L			

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3L 但し、寒冷地は、 2.5Lまで ホタルイ 始～3L ウリカワ 始～4L ミズガヤツリ 始～3L			

③ 稚苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ	移植前後土壌処理した場 合。 +19～+25 (ノビエ 2.5Lまで) ホタルイ 始～2L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		移植前後土壌処理した場 合。 +19～+25 (ノビエ 3.0Lまで) ホタルイ 始～3L			

8) S-64X

昭和49年度第一次適用性試験判定では、成苗移植・稚苗移植とも混合比を変えて再検討の判定であったが、

成苗移植についてはとくに薬害の危険性もないので、第二次適用性試験（適2試験）に移しても「可」と変更する。

9) MT-B-3015 (H) 粒剤

① 成 苗 移 植

使 用 基 準 (A)

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ	+5～ノビエ1.5L (+10頃) ホタルイ 始～2L ウリカワ 始～2L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	

使 用 基 準 (B) 〔変更事項のみ〕

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ	+1～ノビエ2.0L ホタルイ 始～2L ウリカワ 始～2L			
寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤツリ	ミズガヤツリ 始～2L			

② 稚 苗 移 植

使 用 基 準 (A)

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期	一年生雑草, マツバ イ, ウリカワ, ホタ ルイ	+5～ノビエ1.5L ウリカワ 始～2L ホタルイ 始～2L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	
寒冷地以西の普通期	一年生雑草, マツバ イ, ウリカワ, ホタ ルイ, ミズガヤツリ	ミズガヤツリ 始～2L			

使 用 基 準 (B) 〔変更事項のみ〕

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
		+5～ノビエ2.0L ウリカワ 始～2L ホタルイ 始～2L ミズガヤツリ 始～2L			